

令和2年11月25日

横手市議会議長 播磨 博一 様

出席議員代表  
産業建設常任委員長 加藤 勝義

## 『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	令和2年11月11日（水）16:00～17:18
2. 開催場所	Y <sup>2</sup> ぷらざ 3階 研修室1
3. 出席議員	加藤勝義 議員、鈴木勝雄 議員、遠藤忠裕 議員、高橋和樹 議員、菅原正志 議員、菅原恵悦 議員、塩田勉 議員、小野正伸 議員 奥山豊和 議員 ※オブザーバーとして出席
4. 申請団体	一般社団法人 横手市観光推進機構
5. 参加人数	17人（うち議員8名、議会事務局職員3名）
6. テーマ	事業報告と登録DMOについて
7. 懇談会の内容	司会：加藤勝義 産業建設常任委員長 ①主催者あいさつ（加藤勝義 産業建設常任委員長） ②出席者紹介 ③あいさつ DMO 後藤薫 副理事長 ④市民と議会の懇談会 ・DMOからの事業状況等の説明 ・登録DMOについて ⑤閉会あいさつ 鈴木勝雄 産業建設常任委員会副委員長

## 8. 意見交換の主な内容

### ■加藤勝義 産業建設常任委員長 あいさつ要旨

横手市観光推進機構の皆様方におかれては、日頃から横手市の観光、賑わいづくりに尽力いただいていることに深い敬意を表し御礼申し上げます。

昨年度も懇談会は行われ、市とDMOの考えを共有する場がないなど多くの問題点、意見を交換したところでもあります。当常任委員会も昨年とはメンバーがかわりました。

かまくらライド2019や2019よこて発酵フェスなど、昨年度は大きなイベントを開催し活動を活発させ、今年に入ってから新型コロナウイルス感染症により、思う様に活動できない状況が続いておりますが、今年では設立から3年が過ぎ、いよいよ登録が待ったなしの時期になりました。

今日は我々議会としても、観光推進機構さんの実情を知る貴重な機会でもありますので、屈託のない意見交換ができればと思っております。昨年度の会について、非常に固い雰囲気であったという話を伺っております。今日はざくばらんに話せる雰囲気で進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

### ■後藤薫（一社）横手市観光推進機構 副委員長 あいさつ要旨

去年、意見交換会ということで色々話させていただきましたが、やはり我々の皆様方に対する理解度を求める姿勢が若干足りなかったのではないかと思っております。

昨年度、いろいろなご提案、ご意見がございましたので、それらを踏まえ説明したいと思っております。我々のポジションが、まだご理解いただけていない部分がありますので、頂いた質問状に出来るだけ、詳しく説明させていただきたいと思っております。

今後とも、こういう形で会を開催し、我々と議会の皆様方、横手市と連携が深まる形の体制づくりを目指してまいりたいと思っております。

### ■説明概要 （一社）横手市観光推進機構 佐藤修 専務理事

#### 1) DM Oからの事業状況等の説明

事業報告ということで、市に提出した資料でございます。内容については3つの事業ということで成果、課題、改善という3つの項目を設け、検証しながら実施しているところでございます。

誘客事業ということで、インバウンドやおもてなしセミナー等の開催、コンベンション事業ということで、スポーツ合宿に対して飲料水の提供などをしてございます。

物産事業ということで、物産展に参加しフェアを行ってございます。地域連携の事業ということで、旅行会社のアドバイスをもとに観光コンテンツの洗い出しを行ってございます。

フィルムコミッション事業ということで、情報発信しながら映画製作者を通じながら、こちらに来て合宿の様なものを行っていきたいと考えていたところでございます。

プロジェクト事業ということで、JRと連携し東口祭りを行っております。受託事業として、山内杜氏組合の事務委託を受けております。あとは移住アドバイザー等々ございます。イベントが多い部分もあって、我々としてはイベントの部分を少なめにして、別の形で実施していければと考えているところであります。

## 2) 登録DMOについて

登録制度に向けての取り組みということで、今年度登録制度に関するガイドラインが新しく公表になりました。3年を迎えたDMOに対して、登録取り消し規定が新たに設けられました。私たちも登録要件に沿って、先週ようやく申請書を観光庁に提出させていただきました。

今後の流れですが、観光庁の方で登録しませんということはない、ということでこれから中身を調整しながら登録に向けて書類を整えていくこととなります。スケジュールとしては第10弾の登録に向けて、やり取りをしているところです。

## 3) 議会からの事前の質問について

議員の方々から頂いた質問を大きく2つにさせていただきます。

1つ目、DMOの方向性についてであります。当初は広域観光連携の点から立ち上がったDMOは、現在はその話もなくどこに向かおうとしているのか見えない状況になっている。現在の見据える方向性、将来像を伺いたい。私どもが捉える広域という言葉なんですけれども、立ち上がる前ですか、市のプレゼン資料を見ますと第4番目くらいに、広域のお話がありました。

この広域というのは、もしかすると地域連携の事ではと思っております。広域となれば、県をまたいだ話になってきますが、東北観光推進機構という大きいものがありまして、ゆくゆくは東北を一つにまとめて、我々も動くんだろうと思っておりますが、今現在我々は地域DMOということで動いているところであります。

ここで言えば横手の近隣の、美郷町さんであるとか、大仙、湯沢とか羽後町といったところを視野に入れた展開かなと思っております。まったく動いていないというのではなく、湯沢さんから話があったり近畿ツーリストさんが来たりして、湯沢と横手を結ぶツアーを考えようという会もありました。かなり前ですが、いま十文字さんが抜けているかもれませんが、焼石岳、西栗駒の関係、そういうもので地域連携的なものはありました。

実際行われているものに新たに入っていくのは難しい訳で、今は自分たちの地域をしっかりと固めて、その後にやっていければと思っております。

自転車の競技はですね、横手だけでなく、羽後町や湯沢を通ったり、そういう調整の部分を我々がしていくのではないかと思っております。このように少しずつ地域連携ができるのではないかと考えております。

私どもが目標に掲げているのは「人と地域が輝く町を目指していく」ことでございます。横手市の基本構想の中にも掲げているビジョンに沿った形で、一緒の方向を向いた方がいいのではと思っております。

資料には実際行わなければならない部分を5つあげてございますが、「観光調査結果に基づいた事業戦略の策定」「観光コンテンツ・ブラッシュアップ事業の実施」「市民の観光に対する意識啓発参画」「DMC支援・連携事業の実施」それから観光協会と課題を共有して役割分担をしながら進めていかなければと思っております。

目標については、市とも共有しているところで、これから総合計画が出てくると思います。が、それとも調整をしながら一緒にやっっていこうと、お話をしているところでございます。

団体、企業、個人の皆さんをDMCと言っていますが、この方々に収益性の高い事業を推進していただくために、情報の支援、マーケティング、市場分析、企画や、人材育成、各種規制に関する調整、計画策定などの調整役となり事業の支援をしていくことが使命かと思っております。

収益構造としては、横手市よりDMC支援を通じた地域経済の活性化にかかる業務委託料などを頂き、少しずつ積み上げていければと思っております。

DMCの会費が、今現在300万ほど、事業団体は220ほどで運営をし、マーケティング等の手数料収入などもございます。

将来的にはDMCと連携した観光ツアーの主催などで、自主財源の拡大に努めていきたいと思っております。ですが収益が上がるのは中々難しい話なので、この後も引き続き市の方からの支援も何とかお願いしたいと思っております。

質問の2つ目ですが、仕事がないという話ですが、「焼きそば四天王」や「送り盆」「かまくら」などのイベントはDMO側に任せて、それに見合った委託料を出していくべきと考えるが、市側とはどのような話をしているのかとの質問でありました。

ここに観光協会の代表がおりますが、市とは今までこういう話は一切ありませんでした。

この問題が出て、いろいろ話を聞いたところ、どれとは言いませんでしたがアウトソーシングしたいな、ということは市側としても考えがあるようでした。ただ、そこには至っていないのが現状と思っております。

今まで各地域で行っている伝統的な行事等々は地域のもので、それをDMOで全部やるのは考えておられないのが現状ですので、ご理解いただければと思っております。

今年の懇談会後の取り組みと成果ですが、5つほどお伝えしたいと思っております。

市とDMOが考え方の共有を十分とれていない現状ではないかということですが、4月から、それ以前にですね、観光おもてなし課とは月1回から2回、打合せを行っております。月間予定表を作成しながら仕事の内容を共有してございます。

2つ目、既存事業の事務委託を行う際は、直轄事業を行っている時期の段階でDMOを参画させてもらえれば、と私どもでお話をした経緯があります。

スムーズな事業継続を図るため、前もって聞き取りをして、しっかりとした仕様書を出してもらうことで、このことについては改善されたのではと思っております。

3つ目、市の観光計画の目標を達成するためにDMOを活用して欲しい、今回、観光振興計画の中でも市と連携していく旨を盛り込んで頂けると聞いておりますので、統一化を図って進めていきたいと考えております。

4つ目、観光を盛り上げていくと同時に横手ファンを増やそうと考えておる部分ですが、リピーターの獲得を目的に今回特盛キャンペーン、JRみどり市、様々な事業を実施してきております。

アンケートの中間結果ですが、サンプル数は1,200件で、45%が県中央部からの観光客で、また全体の43%が宿泊をされ、満足度については73%になってございます。

5つ目として観光自主経営ということで、観光の生産性を上げて稼ぎ出す力と言うが、委託されたイベントや事務をやっているだけではないか、マネジメント業務ができていないのではないかとということですが、先ほどからお話しておりますが、DMCの交付金の受け皿で行うのがDMOの仕事でございます。DMCに事業を委託して一緒にやっていければと思うところです。

### ■主な意見

#### ○菅原正志 委員

DMOの考え方というところで色々あるんですが、今確認しても、どこがどう違うのか分からないんです。組織として、どう違うのか聞きたい。

#### ○後藤薫 副理事長（DMO）

言葉のとらえ方と言いますか、我々とすれば横手の魅力を発信した中で来て頂いて、横手を好きになって定住なり、魅力を見つけて頂いて来ていただくのが、我々の一つの方向性だと。

#### ○菅原正志 委員

そうすれば宝を探して情報発信して、横手の観光を潤すという部分は。

#### ○後藤薫 副理事長（DMO）

宝というのは、今まで8つのエリアで、それぞれ観光資源という形で見つけているかという、自分たちの地域にいると中々見つけられないものだから、改めて8つのエリアから見つけて前に出していこうと考えています。

#### ○菅原正志 委員

個々にやっていたものを全体としてという考えですね。

それから、市とうまくコミュニケーションが取れていない実感があるようで、説明の中にもあったが、市からの明快な答えもなく、そこのところが一番ネックなような。要するに市がDMOさんを育成するために、やってくれと言った方がやりやすいはず。

1つとして、ふるさと納税の返礼品などだが、情報を共有してファンを増やしながら発信していくのがよいのではと思いました。

#### ○打川敦 副理事長（DMO）

関連してDMOが何のために存在しているか、横手の観光的な資産を利用して全国的に情報発信し認知を頂き、外から人に来てもらって物を売る。その結果、この地域が豊かになるのが大前提です。その為に色々な事業をする訳ですが、「焼きそば」も「送り盆」も「かまくら」も私が当事者なんです。

実はDMOの方は、こういう内部イベントを運営するのではなく、どちらかと言うと、おもてなし課が持っている出前かまくらとか、魅力営業で持っている色んな所に行く物産展とか、今言ったふるさと納税にかかる物産だとか、物産の協会を活性化させる、バイヤーさんと交渉する間に入るとか。農林で持っている発酵のセクションを受け持つとか。そういうのをやらせてもらいたいのがDMOなんです。

設立当初の青写真で目論んだのは、おもてなしの辺りから課長クラスを専務理事に貰って、人も3、4人付けてもらって、それくらいの事業費を貰って、DMOに事業を分けてもらって、役人という立場でなく、半分職員、半分DMOの人みたいな出向した立場でやっていると、事業の継続性も出て上手く回るのではと。

だが、そこまで行きつかないうちにやってしまえ、というということで、この3年間くらいが迷走と言っては悪いが、停滞した感じになったかもしれないけれども。外に発信するという事業を担当させてもらえれば、というのがこの組織だと思っております。

#### ○加藤勝義 委員長

DMOのそもそも論、実際のところ究極は官民連携の組織なんですね、そこに存在価値がある。

昔からやってきている地域イベント、事業は各地域の観光協会が担っている。そうすればDMOは何をやるかという、全国的に様々な横手の魅力発信を担うという説明だったと思う。

去年からの話の中で、市からの委託事業で利益は残らない。財源不足を確保しなければならぬという問題に意見が出てきているが、委託を受けただけでは、ほとんど残らないはずだし、自ら事業を立ち上げてやるにしても人材も財源のない状態で、魅力を発信していこうといっても現実的に厳しいのかなと。そこいら辺は、良い案はあるのか。

#### ○後藤薫 副理事長（DMO）

我々も立ち上げる段階で何もないところから、横手市から補助金なり頂いて運営していこうと。最初の考え方、DMOって何なの、と我々も理解できない部分があった。

当初の目的と違った形で、とにかくDMOを作ったのだが、最初の1年目はあつという間に過ぎて。いずれ我々としても体力をつける組織体でなければならないが、体力をつけるためには、どうするのということで、去年の「かまくらライド」いろんな意見を出して頂いて運営したところ、1年で来年補助金を貰わなくても運営できると。それを継続していけば、財源が入ってくると。大きいお金は入らないが、出来るだけ早く独り立ちしたいなと思っています。

先ほどから官民一体という組織運営であれば、我々が活動するある程度の補助は求めているかなければならないし、いろんな努力はしていく考えはある。

#### ○加藤勝義 委員長

官民と私も言ったが、であるならば市当局と密に意見交換して、市はどうしたいのかと。今の話を聞いて思うのだが、まったく遅い、市の方向性が。

#### ○後藤薫 副理事長（DMO）

この前、観光計画の会議をやって、それに出て来た資料は、これから横手市とDMOは連

携をとって取り組んでいこうと書かれてあったので、繋がりが出来たような気はする。

**○遠藤忠裕 委員**

広域に関して、要は県南周辺の他の市などと連携をとって、1つの土台を作ったら、というのが我々の考えている広域観光です。

もう一つはいろいろな柱建てさせて、全国に売っていこうというイベントがあるのであれば、これはDMOがやるべき、というのが一つの考え方だ。そうしていかないと、運営費は出てこない。聞きたいのだが、この間の種苗交換会には関わりを持ったのか。

**○佐藤修 専務理事（DMO）**

持ちました。ステージ部門と、地域のエキスパート事業で店舗を設け、第1会場の方で、関わってやってきております。ステージ部門は、出演者の交渉、企画、運営など300万ほどで請け負い、その大半は出演者の分で、220万くらいです。

**○遠藤忠裕 委員**

自分は違う要請を受けてやっていると聞いている。これは市の方も悪い、はっきり言って。担当もそれくらいの意識しかもっていないで、DMOにお願いするなんて、とんでもない話だと思う、私から言わせれば。

構成されている組織に、色んな組織がある訳だ。そういう人たちと、動きをもっていけば全然違う中身になっていくのではと思う。そこを市が投げられないところだったのか、そこいら辺が官民一体の流れとは違うと思っています。

DMOとしては、そういう太い柱建てを作っていくって、全国に発信するのを引き受けるべきだと思うし。それをやるために、市がちゃんと応援しなければならないと思う。

それが弱いのであれば、DMOを作ると言ってきた事が何もならない。あの時は観光連盟、コンベンション協会など、それらを解散して1つにしていき農協などを入れていくとの話で、それなら一大産業になると我々は考えた。

それが一部しか渡さないで、違う動きになっているのではと感じる。この事は、これから我々の課題ともなる。

**○打川敦 副理事長（DMO）**

確かにおっしゃる通りで、一番分かりやすい例が県の観光連盟、あれも社団法人で秋田県観光連盟なんですけれども、専務も事務局長もスタッフも県の職員で、予算は県の観光費がほとんどきているし、観光協会も旅館も行政も観光連盟の会員になって会費は払ってますが、会費だけでは事業は出来ないの、あらかたは行政予算で県としてやれない、もうちょっときめの細かい事みたいなのを観光連盟がやっている。

目指すべきは、そういうところかなと思うし、DMOを作ろうとしている辺りの会議に行っていたが、その時を振り返ると、やっぱり広域でまとまるのが大前提で、秋田県の場合、県北とか中央とか県南とまとまれば、理想的だということで進めていたが、大館や鹿角市は秋田犬で、うまい具合に広域でまとまって秋田犬ツーリズムができたし、能代周辺は白神ツーリズム、そして男鹿市を中心になまはげのDMOになりつつある。何をテーマに活動するか、テーマが難しく、県南でもまとまって作ろうとしたけれども、湯沢も横手も、大曲も角館も俺は俺だと、まとまらなかった。

結局、県南の広域DMOはやりにくくなって。角館と横手と羽後町はDMOがあるが、自分の自治体の外に出れない活動しかしていない。本当はもっと広くやらないと、日本全国に世界にという時に、組織が広がっていないと届かないのは確かだ。

#### ○遠藤忠裕 委員

我々も県南4市で議会の交流会をやっている。そういうふうに出ればいいな、という話をしてきた。我々もバックアップする形で、話をしていかなければと思うし。その為には、横手市の中でのDMOと市のあり方を、ちゃんとしてもらわないとまずいのでは、というのが実感です。

#### ○加藤勝義 委員長

テーマを設けて組織したDMOといのは、やりやすい。4つの市町村がまとまらなかったが、横手市に置き換えた場合、8市町村合併したわけですよ。それをまず、まとめるという課題があったと思うが、それぞれの観光協会があると。そこをどうしていくのか、と言った時に、やっぱり市が立ち上げたのだから、市の財源を出して運営していくという責任はあると思う。

委託をして残ったお金でやれ、ということにはならないはずなので。市としては責任があると思う。やっぱり財源を定期的に充当しないと、成り立っていかないのではという心配があって。

#### ○高橋和樹 委員

市の考え方が中途半端だから、ここはひとつ商工観光部から、常勤に近い形で4人よこせと。それで人材を確保して、進めた方がいいのでは。中途半端にやっていたら、どこまでも中途半端になるし。

横手やきそばがスタートの時に、口の悪い職員が焼きそばに、職員入れたのかと。今も言われているのは観光事業に対して、また職員引っ張られて行っているのかと、なぜ観光協会ではやれないのかと。そういう方もたくさんいます。

いっそズバツとやってしまった方が、文句も言われないうらうし、やる事もできるのでは。

#### ○高橋雅博 幹事長（DMO）

観光をきちんと産業としてとらえて、マーケティングしてお金が落ちる形の観光産業として醸成させて。それはいずれ税金として戻ってくるというのがシステムで、きちんと回れば成り立つというのが国の考えだから。

DMOが自ら稼ぎ出すのは厳しくて、先ほど説明したとおり、DMCに儲けて頂いて税金を市に入れてもらう、それをまたDMOに入れてというサイクルをつくるのが目指すところだ。

#### ○加藤勝義 委員長

税金と言っても色々あるから。例えば温泉の入湯税であったり、そういうものを還元していくと。DMOに戻ってくるサイクルの方法もある。そこまで考えないと。和樹委員が言ったように、ドーンと当局に言ってみてもいいのでは。

#### ○高橋雅博 幹事長（DMO）

いずれ登録DMOになれば、観光庁の使える補助金もかなり出てくる。



### ○塩田勉 委員

中途半端で、これを目指そうというのがない。それだけ難しい事だろうけど。問題は市との境目が、市があまりにも細かいところまでやり過ぎていて、ここまでやるのかというのもあるし。

我々は最初、広域連携だろうと思って賛成なりをしてきた。横手として、どういう方向で、どの立場で持っていくのかがない。ただ単にDMOというだけでなく、はっきり位置付けて進めていかないと何をやっても中途半端な格好にならざるを得ないのでは。

市と十分に話をして、ある程度の方向付けは必要だろう。それがないと予算が付けづらい。しっかり体制を整えて横手のDMOとなってもらいたい。

### ○菅原恵悦 委員

心配したのは、せっかく今まで努力して、やり方によっては登録にならなかつたらどうするのかと。今日聞いていたら、登録にならないことはないということだったんですが、ただ登録のためにクリアしたことの話を聞ければよかったなと。私たちにすれば、登録の件については分からないものだから。

### ○加藤勝義 委員長

登録要件で大変だったのは、財源だったのでは。

### ○福岡美晴 事務局長（DMO）

財源もなんですが、財源が補助金でもいいとなっていたので、一応補助金で市とも相談していますという形で、そこについては良かったのですが。

ただK P Iの達成状況と、それに向かったのマーケティング戦力、そういった部分のデータ、分析をしてどういう事業を起こしたかというところが、ちょっと弱かった部分があつて。

ただ昨年度関わった事業で調査し細かい分析等もしたので、それをベースに今年度事業実施している経緯があつたので、今年度は登録に向けて資料作成ができました。

### ○菅原正志 委員

この間、ゆっふるのりんごまつりがあつて。りんご農家さんから、ふるさと納税に使っているりんごは、何として出しているのか、という話をされました。高いし、物は悪いし、あんなのを出されているのは本当に頭にくる、みたいな話をされた。

逆に言うと、地域を良く知っていらっしゃる皆さん方が、そういう観点から地元にある良いものを安くふるさと納税の返礼品に使って頂ければ。ゆっふるのりんごまつりに来れば、皆感動して帰る。安いし、美味しい。ゆっふるだけでなく増田もだが。そういう横手の持っている魅力を、ここに住んでいる人でないと出せないだろうし、情報発信は打川さん大得意だろうし。是非、さとふるに負けないようなプランを立てて頂いて。やっぱり自力飛行できるまでは、人材とお金は絶対必要だと強く感じたので。そこは去年よりも良く分かりました。

### ■鈴木勝雄 産業建設常任委員会副委員長 閉会あいさつ要旨

問題はたくさん山積しておりますが、登録になるということですのでDMOの活動も今日の懇談会を糧にして来年は、こういうことをしましたと胸を張って言えるように頑張ってくださいをお願いいたします。



